

投稿のお願い

第2号の発刊は1年後を予定していますが、誌面をより魅力的なものにするために、皆さま方の投稿をお待ちしております。エッセイ、詩、短歌、俳句、川柳、想い出の写真、また、飯田中学・高校に關する資料などを左記までお送りください。来年6月末締め切り。

また編集委員も随時募集しております。奮ってのご参加を期待しております。

●お問い合わせ先：「稲穂」編集部

〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-6
御苑ハイツ507 (株) デザイン F F 内
TEL 03-33352-5768
FAX 03-33352-5767
E-mail: KXX06762@nifty.com



アルカディア市ヶ谷で重ねられた編集会議

編集後記

●幅広い年代の皆さんが、一つの会報に結果するという難しい課題に対応、優秀な編集委員の尽力により創刊号の発行となった。次号以降さらに内容を充実させたい。(金田)

●老人会でもない限り、集会では最年長であることが多い。そんな年齢で編集に参加することになろうとは……。右往左往しているうちに創刊号の発行となった。(林)

●在京飯田高校同窓会が創立総会を虎ノ門共済会館において開催したのは昭和二十八年五月八日。半世紀にわたりこの会の発展に献身された幾多の先輩に本誌を捧げます。(岡村)

●新聞製作の経験がお役に立てればと編集会議に顔を出していましたが、後輩の優秀なスタッフの中で手を拱いているうちに、立派な会誌が刷り上がっていた。感謝！(福・里)

●春まだ浅い伊那の谷から大志を抱いて発つて来た君。今もおそれぞれ歴史を綴り続けているあなた。稲穂はみんなに心の糧を贈ります。(南無三三三)

●ほとんどの方が初対面で始まった編集会議も回を重ねる毎に和気あいあいに。その雰囲気そのまま伝わって見事な会誌に。皆さんに感謝。(工生)

●「実るほど頭を下げる稲穂かな」の稲穂がトウスイですが、頭を垂れるほどの出来か、スイマセンのウナ垂れか。自己陶醉？と誰かに言われないうちに言っちゃお。(モッキ)

●編集に参加して楽しかった。どちらかといえば、郷土愛とか母校とか……。そういう所には近づきたくなかったのだが……。歳も重ねたし、恩返しをするような気持ちで。(サワサワ)

●故郷・夢を熱く語る元飯田中・高生に感謝。見る間に会誌を作り上げるプロの技に驚嘆。ただ立ちつくす雑木の一本でした。(黒)

●久し振りに「若い人たち」と言われましたが、昨今、「こんなはずではなかったのに……」という思いを強くしています。本当に若い人たちの参加を期待します。(S・S)

『稲穂』創刊号

発行 在京飯田高校同窓会

事務局

(〒101-0047)

東京都千代田区内神田2-15-11

三牧ビル3F

本島信法律事務所

電話 03-3254-1066

発行日

二〇〇四年十月一日

発行人

平田 達

編集委員

金田明夫(編集長)

林 京平 福澤郁文

牧内雪彦 黒柳文字

今川雅晴 久保田郷二

岡村隆臣 清水茂則

福沢里次 三ツ橋史緒子

久保田実 井伊健夫

福鳥茂喜

印刷設計 福澤郁文 高田真貴

印刷製本 (有) 青林社